

第3回 山武地区地域協議会 次第

日 時 令和5年9月19日（火）

午後2時から

場 所 城西国際大学 本部棟8階会議室

1 開 会

2 報 告

- (1) 第2回山武地区地域協議会の記録（案）について
- (2) 「県立学校改革推進プランに係る評価」の実施方法等について（資料1）
 - ・ 県立松尾高等学校 H28 再編 H30 評価
 - ・ 県立成東高等学校 H28 再編 H30 評価
 - ・ 県立大網高等学校 H30 再編 R 2 評価
- (3) 「教員基礎コース」追跡調査について（資料2）
 - ・ 県立千葉女子高等学校
 - ・ 県立安房高等学校

3 議 事

- (1) 山武地区に所在する県立高校の志願状況等について（資料3）
- (2) 山武地区に所在する県立高校の今後の在り方等について
- (3) 地域連携協働校について（資料4）

4 報告・連絡

5 閉 会

【配布資料】

資料1 「県立学校改革推進プラン」・「第1次及び第3次実施プログラム」における評価について

資料2 「県立学校改革推進プラン」に基づき実施した「教員基礎コース」の追跡調査について

資料3 山武地区に所在する県立高校の志願状況等について

資料4 地域連携協働校について

【報告 1】

「県立学校改革推進プラン」

・「第 1 次及び第 3 次実施プログラム」 における評価について



みんなで取り組む
千葉の教育

千葉県教育庁企画管理部
教育政策課高校改革推進室

1

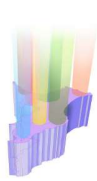
I 評価の概要

報告書の作成

 みんなで取り組む
千葉の教育

**松尾高校（グローバル化に関する学び）
・成東高校（単位制の導入）
に関する評価を記載**

県立学校改革推進プランに係る評価
(平成 28 年度再編実施分)

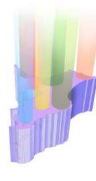


令和元年 9 月
教育政策課

 みんなで取り組む
千葉の教育

**大網高校（学科再構成）
に関する評価を記載**

県立学校改革推進プランに係る評価
(平成 30 年度再編実施分)



令和 3 年 9 月
教育政策課

2

1

I 評価の概要

1 評価の目的

I 評価の概要

1 評価の目的

県立学校改革推進プラン（以下「プラン」という）の実施状況及び成果や課題を把握し、より一層魅力ある県立学校づくりを推進するとともに、今後の高校改革に係る計画の策定に資することを目的として評価を実施します。

3

I 評価の概要

2 評価の進め方

2 評価の進め方

(1) 調査の時期

再編の実施年度から3年が経過し、初めての卒業生が輩出される年に合わせて各種調査を行い、外部からの意見聴取を実施しながら評価を取りまとめます。

定時制・通信制高校においては、4年が経過するまでの卒業生が輩出される年に合わせて各種調査を行います。

(2) アンケート調査、聴き取り調査等の実施

ア 再編実施校の生徒及び保護者を対象に、アンケート調査を実施します。コース設置の場合にはコース選択者以外にも抽出してアンケート調査を実施します。

イ 再編実施校を訪問して、聴き取り調査を実施します。

ウ 再編実施校の近隣中学校にアンケート調査を実施します。

4

Ⅱ 生徒及び保護者アンケート調査（集計結果）

1 グローバル化に関する学び（松尾高校）

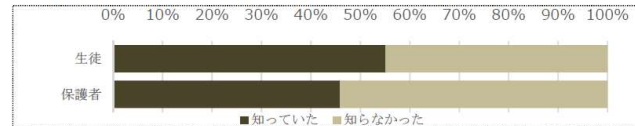
（1）グローバル化に関する学び（松尾高校）

ア アンケートの実施

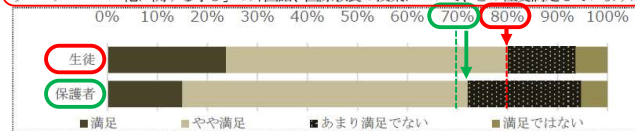
(ア) 実施時期 平成 30 年 12 月

(イ) 回答数 生徒 158、保護者 146

イ 受検前に「グローバル化に関する学び」があることを知っていましたか。



ウ 「グローバル化に関する学び」の外国語、国際教養の授業について、どの程度満足していますか。



エ 「グローバル化に関する学び」で学んで良かったですか。



5

Ⅱ 生徒及び保護者アンケート調査（集計結果）

2 単位制高校（成東高校）

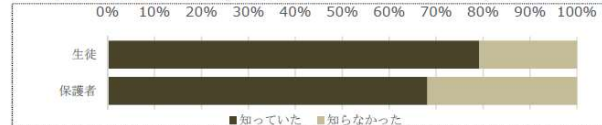
（4）単位制高校（成東高校）

ア アンケートの実施

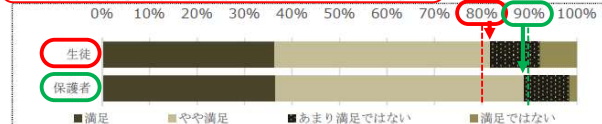
(ア) 実施時期 平成 30 年 12 月

(イ) 回答数 生徒 77、保護者 66

イ 受検前に成東高校に「単位制」が導入されることを知っていましたか。



ウ 「単位制高校」での多様な選択科目に満足していますか。



エ 「単位制高校」で学んで良かったですか。



6

Ⅱ 生徒及び保護者アンケート調査（集計結果）

3 農業に関する学科の学科再構成（大網高校）

2 職業系専門学科・コース

（1）農業に関する学科の再構成

（流山高校、成田西陵高校、下総高校、多古高校、旭農業高校、大網高校、

茂原樟陽高校、鶴舞桜が丘高校※現市原高校）

○当該校への聴き取り（抜粋）※令和3年3月実施

（ア）「わかりやすい学科体系及び名称」の評価について

- ・園芸科に2コース（園芸コース・生活科学コース）を配置しているが、生活科学コースの認知が低く。以前の生活科学科と同様の学習ができることが伝わりにくい。（流山）
- ・各学科の特色を理解しやすくなった。（成田西陵）
- ・学科名から、農業系の学習をすることが理解されるようになった。（下総）
- ・生産流通科と比較し園芸科の名称は学科の内容を想像しやすいと考えるが、中学校職員から園芸科では何を学ぶのかまだまだ理解されていない。（多古）
- ・中学生や職員からは、学科名が変わったことへの大きな反応は感じられない。（旭農業）
- ・直接評価を聞く機会はないが、学科名が統一され、中学生等が考える農業関係高校に対するイメージがわかりやすくなっていると思われる。（大網）
- ・学科名から教育内容がわかりやすくなった。（茂原樟陽）

7

Ⅱ 生徒及び保護者アンケート調査（集計結果）

3 農業に関する学科の学科再構成（大網高校）

（カ）「学科名の変更により、生徒の入学状況等の変化」について

- ・人気のあった生活科学科廃止の影響から、入学希望者数の減少傾向が顕著である。（流山）
- ・生活科学科と生産技術科の授業流れを取り入れたので、スムーズに園芸科に変更できた。（成田西陵）
- ・地域の中学校の生徒数減少により、志願者の減少が続いている。（下総）
- ・地域的に人口減であり、変更による変化はない。（旭農業）
- ・再編当時は農業系4学科から3学科になったこともあり入試の倍率は向上した。（大網）
- ・教育内容が学科名からある程度分かるようになり、学習内容を理解した入学生が多くなった。（茂原樟陽）

8

※資料の公表について

- ・千葉県教育委員会ホームページにて
「評価報告書」として公表

⇒再編実施年度分ごとに公表

9

※資料の公表について

千葉県
chiba prefecture

ホーム > 教育・文化・スポーツ > 教育・進学推進 > 学校教育 > 数ある県立学校づくり > 『県立学校改革推進プラン』について(平成28年～令和1年) > 県立学校改革推進プランに係る評価
更新日：令和4(2022)年12月9日 ページ番号：3113647

千葉県 県立高校ナビ

県立学校改革推進プランに係る評価

県立学校改革推進プランの実施状況及び成果や課題を把握し、より一層魅力ある県立学校づくりを推進するとともに、今後の高校改革に係る計画の策定に資することを目的として評価を実施します。

■ 評価の進め方

(1) 調査の時期

- 再編の実施年度から3年が経過し、初めての卒業生が輩出される年に合わせて各種調査を行い、外部からの意見聴取を実施しながら評価を取りまとめます。

(2) アンケート調査、聴き取り調査等の実施

- 再編実施校の生徒及び保護者を対象に、アンケート調査を実施します。コース設置の場合はコース選択者以外にも抽出してアンケート調査を実施します。
- 再編実施校を訪問して、聴き取り調査を実施します。
- 再編実施校の近隣中学校にアンケート調査を実施します。

(3) 評価の作成

- 調査結果は「普通科及び普通系専門学科・コース」「職業系専門学科・コース」「総合学科」「社会のニーズに対応した教育」「県立学校の適正規模・適正配置」の5編種別(大別)・整理して、取りまとめを行います。
- 取りまとめた調査結果について、教育関係団体、産業関係団体、その他外部・関係団体から意見聴取を実施します。
- 意見聴取等をもとめ、再編種別ごとに「成果と課題」及び「今後の取組の方向性」について取りまとめます。

■ 評価報告書

- 令和元年度再編実施分令和4年12月9日
- 平成30年度再編実施分令和4年9月15日
- 平成29年度再編実施分令和4年10月14日
- 平成28年度再編実施分令和4年9月13日
- 平成27年度再編実施分平成29年9月13日
- 平成26年度再編実施分平成29年9月14日
- 平成25年度再編実施分平成28年9月21日

10

5

【報告2】 「県立学校改革推進プラン」に基づき実施した 「教員基礎コース」の追跡調査について



みんなで取り組む
千葉の教育

千葉県教育庁企画管理部
教育政策課高校改革推進室

1

「教員基礎コース」の追跡調査について

※「県立学校改革推進プランに係る評価（令和元年度再編実施分）」に記載

再編校の追跡調査について

1 調査の目的

再編により設置したコース等において、大学等卒業後の就業状況について、追跡調査を実施し、再編の効果を検証するとともに、検証結果を踏まえ、生徒にとってより良い学びの場となるよう各学校の取組の支援やコース等の見直しに活用するため。

2 調査対象

教員基礎コース 第1期生（千葉女子高校・安房高校）
平成26年度設置 平成28年度卒業

2

1

「教員基礎コース」の追跡調査について

※「県立学校改革推進プランに係る評価（令和元年度再編実施分）」に記載

3 調査結果

調査数 71 名 回答数 35 名（回答率 49.3%） ※令和3年6月実施

- (1) 進学先で教職課程を履修した生徒数 24名 / 35名（68.6%）
- (2) 進学先で教員免許を取得した生徒数 23名 / 24名（95.8%）
- (3) 千葉県・千葉市教員採用試験を受験した生徒数 13名 / 23名（56.5%）
- (4) 千葉県・千葉市教員採用試験で合格した生徒数 6名 / 13名（46.2%）

※未回答も含めると8名が県内公立学校に正規採用

3

「教員基礎コース」の追跡調査について

※「県立学校改革推進プランに係る評価（令和元年度再編実施分）」に記載

(5) 就業状況（回答数35名の内訳）

種 別	人数	%	主な進路先
小中高教員	13	37.1	(正規採用) 県内公立学校 6、県外公立学校 2、 県外私立学校 1 (臨任講師) 県内公立学校 4
その他就職	13	37.1	幼稚園 2、保育園 2、児童相談所 1、養護施設 1、 公務員 2、一般企業就職 5
進 学	1	2.9	
在学中	1	2.9	
その他	1	2.9	
無回答	6	17.1	
計	35	100.0	

4

「教員基礎コース」の追跡調査について

【参考】卒業生の主な意見

- ・教員基礎コースで教職体験をしたことで、大学選ぴを一年生の頃から真剣に考えることができたし、将来こうなりたいというイメージも、持つことができたと思う。働き始めてから、日々の仕事の忙しさに追われて目の前の子どもに対してきちんと指導できているのか不安になるときもあります。そんなときに教員基礎コースで勉強した数々の資料と、当時の自分の考えを振り返って教育の楽しさを感じています。そうやって振り返る場所があるということに誇りと安心感をもっています。
- ・自分の進路を見つめる良いきっかけとなった。子どもに関わる仕事がしたいという思いで教師になりたいと思い、コースに所属した。その中で、子どもに携わる仕事は教師以外にも様々にあることに気づいた。コースでの気づきを通して、大学に進学し、自分自身が挑戦したい分野を見つけることができたのだと感じている。
- ・様々な実習を通して、教員という職業の魅力的なところ、大変なところを知る機会を得ることができました。そのおかげで、進路を考える上でのミスマッチを防げたと思います。コミュニケーションの取り方、他者理解といった社会人としての基礎にも通ずる学びは、今の生活に生きています。
- ・大学の教育実習のイメージがつくので、準備しやすかったと感じています。どんなところかのイメージがあるので、慣れることにそれほど時間を費やすことなく授業づくりや子どもとの関わりに集中できました。また、良い先生ってなんだろう？というディスカッションが私は心に残り今でも良かったと思っています。大学でも教職の勉強はしますが、どんな先生が良いかということをディスカッションする機会はなかなかありませんでした。高校生という生徒目線から、良い先生はなんだろう？という根本的なトピックをディスカッションしあえたことは今も生きています。教員採用試験の面接練習や、教員になった今でもその高校生のときに考えた原点に立ち返ることがあります。教員の道を選ばなくても、ひとつのテーマについて実践したりディスカッションしたりするという過程を経験したことは糧になると思います。
- ・教員基礎コースの講座で学んだ知識や考え方は今の仕事の基盤になっていると感じます。具体的に講座名や先生の名前は覚えていませんが、講座の中で先生が仰っていた「先生として完璧でいようとするのではなく、自分もわからないことがあったとしても学び続けてその姿勢を生徒に見せることが何より大切」という言葉が授業や生徒と関わる上で基盤になっていると思います。

5

「教員基礎コース」の追跡調査について

【主な意見(抜粋)】

- 大学選ぴを一年生の頃から真剣に考えることができた。
- 将来こうなりたいというイメージも、持つことができた。
- コースでの気づきを通して、大学に進学し、自分自身が挑戦したい分野を見つけることができた。
- 教員という職業の魅力的なところ、大変なところを知る機会を得ることができたことで、進路を考える上でのミスマッチを防げた。
- 教育実習のイメージが付き、準備しやすかった。

6

I 山武地区に所在する
県立高校の募集学級数の推移について

工 募集学級数の推移

課程	学校名	学科名	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
全 日 制	松尾	普 通	4	4	4	4	4	4	3	3	3	3
		成東	普 通	6	6	6	6	6	6	5	6	6
		理 数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	東金	普 通	5	5	5	5	4	4	4	4	4	4
		国際教養	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	東金商業	商 業	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2
		情報処理	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	大網	普 通	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1
		農 業					1	1	1	1	1	1
		生産技術	1	1	1	1	H30年度、農業科へ学科再構成					
		農業経済	1	1	1	1	H30年度、農業科へ学科再構成					
		食品科学					1	1	1	1	1	1
		食品工業	1	1	1	1	H30年度、食品科学科へ学科再構成					
		生物工学	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	九十九里	普 通	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3
定 時 制	合 計		31	30	30	30	28	28	26	24	25	25
	東金	普 通	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	合 計		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

※開校における適正規模の下限である4学級に学校全体で満たない年度のセルを灰色にしている。(全日制のみ)

1

II 山武地区に所在する県立高校の志願状況について

(3) 入試の状況

40名×募集学級数

3年度入学

入学許可候補者数÷定員×100

令和5年度入学者選抜

学校名	学科名	定員	志願者数	倍率	許可候補者数	充足率	定員	志願者数	倍率	許可候補者数	充足率	定員	志願者数	倍率	許可候補者数	充足率
松尾	普通	120	112	0.93	112	93%	120	138	1.15	120	100%	120	105	0.88	106	88%
成東	普通	200	228	1.14	200	100%	240	277	1.15	241	100%	240	235	0.98	240	100%
	理数	40	41	1.03	40	100%	40	46	1.15	40	100%	40	24	0.60	26	65%
東金 【全日制】	普通	160	163	1.02	160	100%	160	161	1.01	160	100%	160	187	1.17	160	100%
	国際教養	40	33	0.83	35	88%	40	33	0.83	34	85%	40	38	0.95	40	100%
東金商業	商業・情報処理	120	98	0.82	99	83%	120	130	1.08	120	100%	120	92	0.77	95	79%
大網	普通	40	35	0.88	34	85%	40	44	1.10	40	100%	40	41	1.03	40	100%
	農業	40	38	0.95	40	100%	40	32	0.80	31	78%	40	37	0.93	36	90%
	食品科学	40	43	1.08	40	100%	40	38	0.95	39	98%	40	33	0.83	33	83%
	生物工学	40	36	0.90	36	90%	40	36	0.90	37	93%	40	28	0.70	28	70%
九十九里	普通	120	48	0.40	49	41%	120	43	0.36	46	38%	120	46	0.38	47	39%
東金 【定時制】	普通	40	7	0.18	8	20%	40	4	0.10	6	15%	40	6	0.15	6	15%

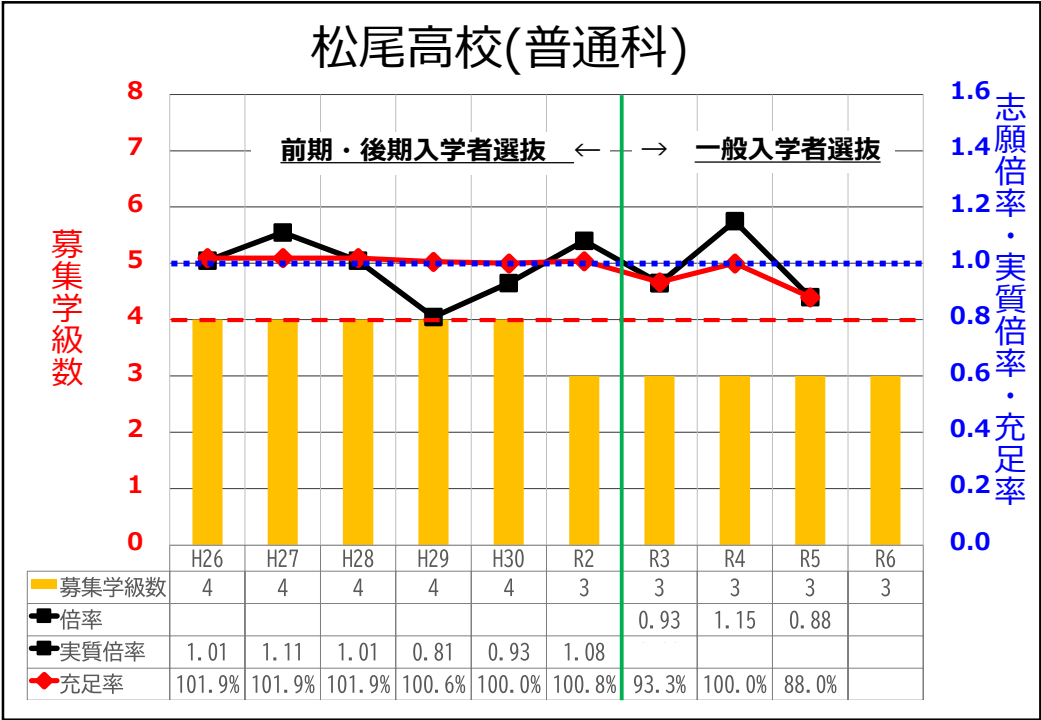
2

Ⅱ 山武地区に所在する県立高校の志願状況について

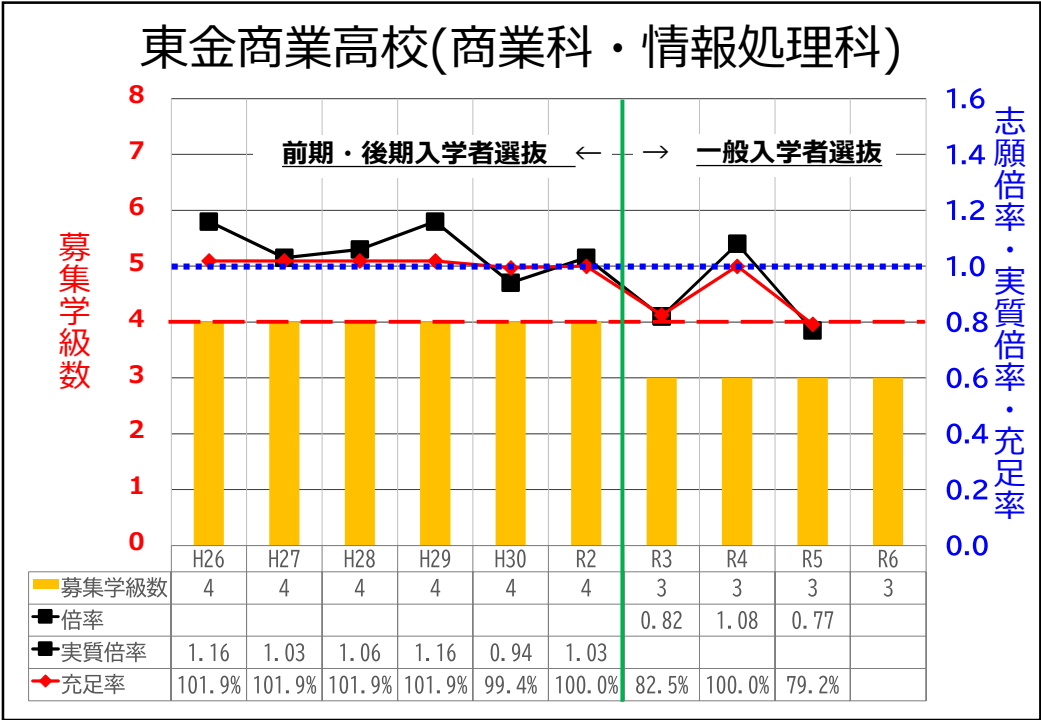
(3) 入試の状況

学校名	学科名	令和3年度入学者選抜					令和4年度入学者選抜					令和5年度入学者選抜				
		定員	志願者数	倍率	許可候補者数	充足率	定員	志願者数	倍率	許可候補者数	充足率	定員	志願者数	倍率	許可候補者数	充足率
松尾	普通	120	112	0.93	112	93%	120	138	1.15	120	100%	120	105	0.88	106	88%
成東	普通	200	228	1.14	200	100%	240	277	1.15	241	100%	240	235	0.98	240	100%
	理数	40	41	1.03	40	100%	40	46	1.15	40	100%	40	24	0.60	26	65%
東金【全日制】	普通	160	163	1.02	160	100%	160	161	1.01	160	100%	160	187	1.17	160	100%
	国際教養	40	33	0.83	35	88%	40	33	0.83	34	85%	40	38	0.95	40	100%
東金商業	商業・情報処理	120	98	0.82	99	83%	120	130	1.08	120	100%	120	92	0.77	95	79%
大網	普通	40	35	0.88	34	85%	40	44	1.10	40	100%	40	41	1.03	40	100%
	農業	40	38	0.95	40	100%	40	32	0.80	31	78%	40	37	0.93	36	90%
	食品科学	40	43	1.08	40	100%	40	38	0.95	39	98%	40	33	0.83	33	83%
	生物工学	40	36	0.90	36	90%	40	36	0.90	37	93%	40	28	0.70	28	70%
九十九里	普通	120	48	0.40	49	41%	120	43	0.36	46	38%	120	46	0.38	47	39%
東金【定時制】	普通	40	7	0.18	8	20%	40	4	0.10	6	15%	40	6	0.15	6	15%

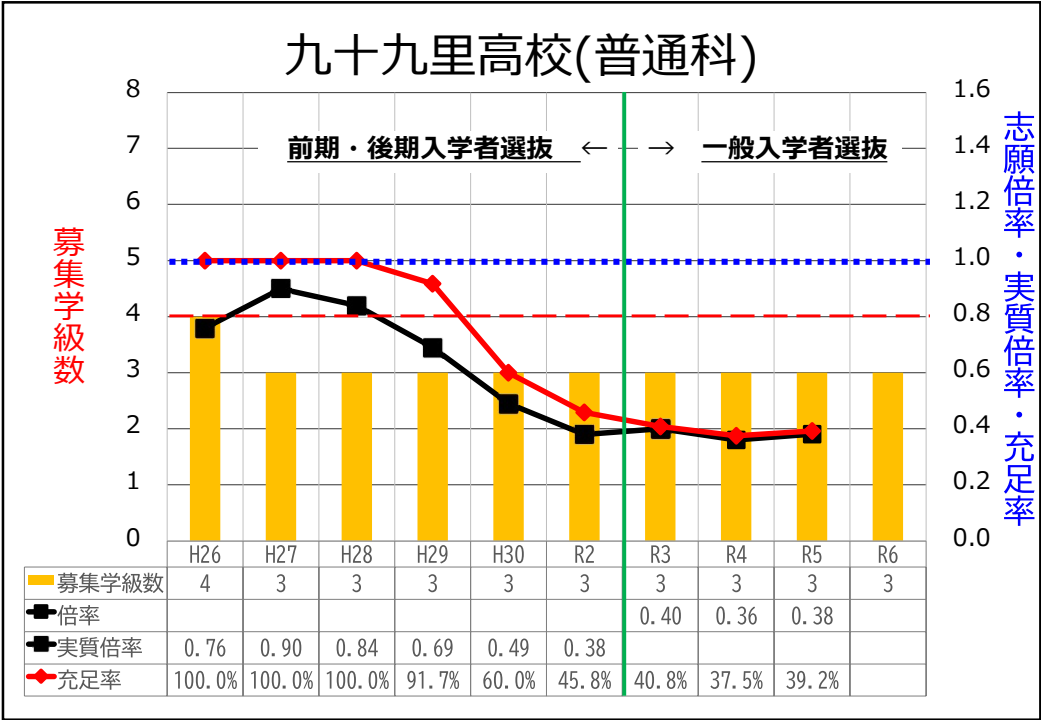
3



4



5



6

Ⅱ 県立高校の適正規模・適正配置

全日制高校

1 全日制高校の適正規模・適正配置

【これまでの経緯】

本県では、これまでに、中学校卒業生数の減少に対応するため、募集定員の削減や、前プランにおいて3校の統合1組を含む3組の統合を実施するなど、規模や配置の適正化を進めてきました。

しかしながら、令和4年3月から10年後の令和14年3月には、中学校卒業生数がさらに約6,200人減少することが見込まれており、これは学級数に換算すると約155学級分に相当します。

そこで、『県立高校改革推進プラン』（令和4年3月策定）の【具体計画の方向】において、県立高校の適正規模・適正配置について、

- 多くの友人・教職員との触れ合いや切磋琢磨の機会を確保し、教育課程の柔軟な編成や活力ある教育活動が展開できるよう、学校の規模・配置の適正化を推進します。
- 都市部では、1校当たりの適正規模を原則1学年6～8学級とし、適正規模に満たない学校や同じタイプの学校が近接している場合については、統合による多様な学びへの変換や新たなタイプの学校への再編を検討します。
- 郡部では、1校当たりの適正規模を原則1学年4～8学級とし、適正規模に満たない学校については統合の対象として検討しますが、学校・地域の状況等に配慮し、統合しない場合もあります。
- 中学校卒業生数が減少する中、活力ある教育活動を維持するため、適正規模・適正配置の観点から、10組程度の統合を見込んでいますが、学校の適正な配置に当たっては、地域における学校の在り方などについて、生徒や保護者のニーズを踏まえるとともに、学識経験者、地域関係者、私学関係者、教育関係者から成る地域協議会などにおいても意見を伺いながら、検討を進めます。
- 多様なタイプの学校の中から、生徒が興味・関心や進路希望に応じて、自分に合った学校が選べるよう、適正配置に配慮します。

としました。

【今後の対応】

中学校卒業生数の減少に対して、県立高校 121 校を引き続き維持しながら募集定員減で対応するだけで、適正規模を維持することは困難となります。

また、学校の小規模化により、生徒や教職員数が減少し、生徒同士の切磋琢磨の機会確保や、教育課程の柔軟な編成、活力ある教育活動による生徒の多様なニーズへの対応が困難になったり、学校行事や部活動なども制限されたりと、特色ある教育活動の充実に支障をきたすことが考えられます。

そのため、全県的な視野に立ち、引き続き、統合による再編も含め、適正規模・適正配置に努めていく必要があります。

なお、統合に当たっては、生徒や保護者のニーズを踏まえるとともに、学識経験者、地域関係者、私学関係者、教育関係者から成る地域協議会などにおいて、地域の方々から地域における学校の在り方について意見を伺い、検討を進めていきます。

また、それぞれの学校が長年培ってきた伝統や学びなどの継承や、施設設備の改善・充実による、より効果的な教育環境の提供、地域の資源を生かした教育活動による学校の活性化など、新たな方策も含め、引き続き研究し、検討を終えたものから公表していきます。

《都市部について》

都市部では、令和 5 年度には、全日制において 1 学年 3 学級以下の学校が 2 校、4 学級の学校が 6 校、5 学級の学校が 5 校となります。

適正規模の維持が困難と見込まれる学校を中心に、地域における高校の在り方を検討した上で、活力ある教育活動の維持や学習環境・課外活動の更なる充実を図るため、統合による再編を検討します。

検討にあたっては、地域の実情等を十分に考慮しつつ、統合により、より魅力ある高校となるよう改善を図りつつ、適正規模の維持に努めます。

《郡部について》

郡部では、令和 5 年度には、全日制において 1 学年 3 学級の学校が 11 校となります。

高校の選択肢が限られる中、多様な高校選択の機会や通学の利便性を確保しつつ、地域との連携や協力を得ながら、将来地域の担い手となる人材を育成できるよう、高校の在り方について検討します。

統合にあたっては、適正規模の維持が困難となることが見込まれる学校であっても、ただちに再編の対象とするのではなく、地理的条件や公共交通機関の状況、地域の抱える状況、学科の配置バランス等を踏まえ、「教育を受ける機会の確保」についても配慮し、生徒にとってより良い高校の在り方について検討します。

また、地域によっては、少子高齢化を伴う人口減少の進行により、ますます地域社会が

衰退していくことが懸念されています。そこで、高校生が地域社会の一員として主体的に地域に関わることで、地域社会や地域産業の発展・振興を担う人材の育成につなげることが期待されています。

さらに、高校においては「学びの場を保障し、これからの時代を生き抜く力を育成する」ために、また、地域においては「地域の活性化」のために、これまで以上に高校と地域が連携・協働することが必要です。

そこで、「通学が著しく困難となる地域の生徒」を対象に、「小規模校でも学校を残すことで、通学への負担を軽減し、学びの場を保障するとともに、学校と地域が連携・協働をし、地域ならではの資源を活用した教育活動を展開する」ため、**地域連携協働校**の指定について検討します。

地域連携協働校では、各校の特色ある学びを通して、「地域の将来を担う人材」や「地域社会に積極的に参画する人材」の育成を目指します。

【基本的な考え方】

都市部

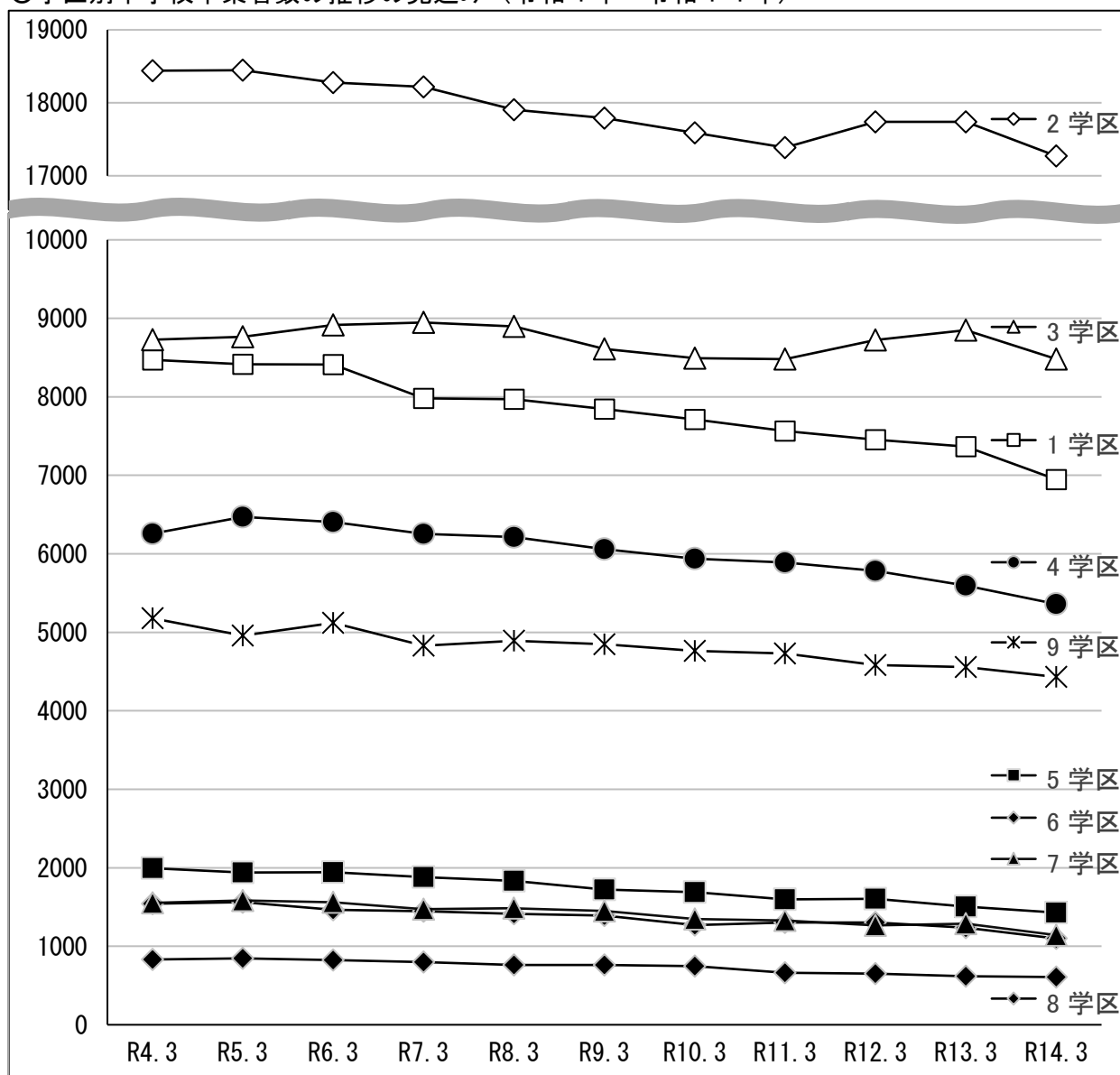
- 適正規模未満の学校や将来適正規模の維持が困難となることが見込まれる学校及び同じタイプの学校が近接している場合には、適正配置を考慮しながら、規模の最適化を図ります。
- 統合に当たっては、地域の実情等を十分に考慮しつつ、対象校がそれぞれ培ってきた伝統や文化、特色ある学び等を継承するとともに、新たな教育内容・方法を積極的に導入し、様々な特色や個性をもった魅力ある学校を目指します。

郡 部

- 統合により通学が著しく困難となる地域であり、かつ地元からの進学率が高い高校を**地域連携協働校**に位置付けます。
- **地域連携協働校**は、学校運営協議会制度を導入するなど、地域の協力・支援を得つつ、地域と一体となり、地域ならではの資源を活用し、「地域の将来を担う人材」や「地域社会に積極的に参画する人材」の育成を目指します。
- **地域連携協働校**の運営体制については、学校運営を円滑に推進するために、必要に応じて、近隣の高校を協力校に指定するなどし、出張授業やICTを活用した授業をはじめ、生徒会交流や部活動の合同実施、教職員の研修など、必要な事項について連携、協力を図ります。
- **地域連携協働校**に指定された高校も含め、生徒募集において著しく困難が生じる場合については、統合も検討します。

《関連データ》

○学区別中学校卒業生数の推移の見込み（令和4年～令和14年）



出典：学校基本調査（文部科学省）及び千葉県年齢別町丁字別人口調査（千葉県総合企画部統計課）を基に教育政策課にて作成

○都市部（1～3学区）で6学級以下、郡部（4～9学区）で4学級以下の全日制高校（1学年）

学級	1 学区	2 学区	3 学区	学級	4 学区	5 学区	6 学区	7 学区	8 学区	9 学区
6	京葉工業 千葉工業 柏井 犢橋	船橋古和釜※1 船橋法典 市川工業 松戸 松戸向陽	沼南高柳 流山北※1 我孫子東	4	八街	小見川 銚子 東総工業	大網	茂原 一宮商業 大多喜 大原	長狭※4 安房拓心 館山総合※4	木更津東 姉崎
5		八千代西 船橋北 浦安※4	鎌ヶ谷西 流山	3	下総※4	多古※4 旭農業	松尾※4 東金商業 九十九里※4			天羽※1 君津青葉 市原 京葉※4 市原緑
4	泉※1	船橋豊富※4 行徳 浦安南	沼南 清水	※1：地域連携アクティブスクール ※2：多部制定時制併置 ※3：連携型中高一貫教育校 ※4：コミュニティ・スクール						
3			関宿※3							
2	生浜※2※4									

（令和5年度第1学年生徒募集定員より）